

平成 22 年 6 月 14 日現在

研究種目：基盤研究（C）
 研究期間：2007～2009
 課題番号：19520509
 研究課題名（和文）プロフェッショナル養成のためのジャンル別法律学習システムの構築
 研究課題名（英文）Construction of a genre-based learning system for English legal documents for professional education
 研究代表者 寺内 一（TERAUCHI HAJIME）
 研究者番号：50307146

研究成果の概要（和文）：本研究では「法律英語オンライン学習システムの開発」を行った、その目的は「法律のプロフェッショナルが必要とする英語を、効率良く身につけるための学習システムを構築する」ことであった。システムの特徴は 1) 重要な法律英単語の学習ができる、2) 学習の履歴が保存され、効率良く復習できる、3) 問題の関連キーワードにリンクを設定でき、類語辞書システムなどと連携可能の 3 点である。その「システムの機能」は認証（ユーザー認証を行う、問題実施（重要な法律英単語に関する 4 択問題が出題）、解説表示（問題実施後に問題の回答が表示される）、回答状況表示（正答率や不正解だった問題や単語が表示される）の 4 点である。

研究成果の概要（英文）：Research was conducted in order to develop a genre-based learning system for legal documents to be used in the English-language education of professionals in jurisprudence. The system has the following characteristics: (1) it enables students to learn important English terminology; (2) it maintains records of individual students to support efficient study; and (3) it has links from exercise questions to important key words and a thesaurus. The system offers the following features: user identification, presentation of exercise questions (multiple choice questions related to important English legal terminology), presentation of answers to the exercise questions (can be viewed after the exercise has been completed), and views of learner records (correct and incorrect responses and terminology). In training to become legal professionals, students can use this system from both the linguistic and professional viewpoints to both read and write (prepare) legal documents in English.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007 年度	1,400,000	420,000	1,820,000
2008 年度	500,000	150,000	650,000
2009 年度	1,400,000	420,000	1,820,000
年度			

年度			
総計	3,300,000	990,000	4,290,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学・外国語教育

キーワード：(1)ESP (2)PAIL (3)OCHA (4)ツール (5)システム (6)検索 (7)法律英語 (8)辞書

1. 研究開始当初の背景

本研究では、English for Specific Purposes (以下、ESP) の観点から、「合衆国憲法判例」を基本にした先行研究（平成 15 年度－17 年度科学研究費補助金研究基盤研究 B「アメリカ憲法判例を基にした『法律英語関連事典』の開発－ESP 教育への提言」（課題番号 15320072、研究代表者：寺内 一））で得られた憲法判例という非常に限られたジャンルで検索システムのサンプルを作成した。

2. 研究の目的

本研究は、法律領域で法律のプロフェッショナルが必要としている「オンラインによる法律英語辞書とジャンル別法律英語専門文書作成ツール、さらにそれらに対応した法律英語教材の開発」を行うことを主目的とする。本研究では、English for Specific Purposes (以下、ESP) の観点から、「合衆国憲法判例」を基本にした先行研究（平成 15 年度－17 年度科学研究費補助金研究基盤研究 B「アメリカ憲法判例を基にした『法律英語関連事典』の開発－ESP 教育への提言」（課題番号 15320072、研究代表者：寺内 一））で得られたサンプル（下図）を足がかりに、その対象者を、「契約書」、「遺言書」、「特許申請書」といった憲法判例以外の「法律領域」の他の「ジャンル」を含んだ「法律英語オンライン辞書」使用者とする。この辞書を利用する者が法律のプロフェッショナルとして

言語的、専門的側面双方から法律英語を駆使し、読むことはもちろん、実際にそうしたさまざまな法律文書を作成することを可能にさせる「法律専門家」がメンターとしてアドバイスし、蓄積されたデータをもとに教材を作成することになる。このシステムを通して、学習者（使用者）は「法律英語」をいかに効果的に使用していくかを学び、法律のプロフェッショナルとして自立していくのである。この「法律領域モデル」を基盤にして、経済学や工学等の領域にそれぞれ対応した辞書・ツール・教材が一体となったいわゆる「ESP プロフェッショナルのための英語学習サポートシステム」の開発を提言することを本研究の最終目的とする。

3. 研究の方法

研究方法は以下のとおりである。

準備段階(平成 19 年 4 月から平成 19 年 6 月)
「先行研究（サンプル）」で提示した「判例」のシステムの辞書機能と検索機能の補完作業

第 1 段階(平成 19 年 7 月から平成 19 年 9 月)
実際に「判例」そのものを作成するツールの開発

第 2 段階(平成 19 年 10 月から平成 19 年 12 月)
「判例」の辞書と文書作成ツールの対応した自立型教材開発

第 3 段階(平成 20 年 1 月から平成 20 年 3 月)
個別ユーザーがそこに自分のデータを入れ

て学習できる「判例用法律英語学習サポートシステム」の構築

第4段階（平成20年4月から平成21年3月までの予定を6月まで延長）：判例の部分で「契約書」、「特許」、「遺言書」などの他の法律のジャンルテキストを入れた「ジャンル別法律英語学習サポートシステム」の構築（専門辞書作成、文書作成ツール作成、教材開発を含む）

1) 第1段階から第3段階までを網羅した総合的な「雛型」をモデルにして、法律の違ったジャンルで同様の作業を行い各ジャンルの「雛型」を作成する。

2) 法律の違ったジャンルでの言語データ分析を行う。

3) 法律の違ったジャンルを基本にした教材を開発する。（連携研究者：プール・グレゴリー（多摩大学・グローバルスタディー学部・教授）が教材開発の観点から研究に参画する）。

第5段階（平成21年4月から平成21年9月）エスノグラフィーアプローチによる実地検証

第6段階（平成21年9月から平成22年3月）法律とは違った領域での「ESP プロフェッショナルのための英語学習サポートシステム（例：マーケティング英語学習サポートシステム）」の提言

4. 研究成果

（平成19(2007)年度）

平成19年度は、「条文」、「契約書」、「遺言書」、「特許申請書」といった憲法判例以外の「法律領域」の他の「ジャンル」を含んだ「法律英語オンライン辞書」使用者とした。この辞書を利用する者が法律のプロフェッショナルとして言語的、専門的側面双方から法律英語を駆使し、読むことはもちろん、実際に

そうしたさまざまな法律文書を作成することを可能にさせる「法律文書作成ツール」を作成することを目標とした。

個別ユーザーが自分のデータを入れて学習できる日本国憲法を素材に使った「条文用法律英語学習サポートシステム」の構築を行った。これを基本に「遺言書用法律英語学習支援システム」や「契約書用法律英語学習支援システム」の準備とこの方法論が他のジャンルで応用できるかの準備をおこなった。平成19年8月27日から31日までドイツのハンブルク大学で行われた第14回 European Symposium on Language for Special Purposes (LSP) で寺内 一・野口ジュディー・プール＝グレゴリーの3名が口頭発表を行った。発表タイトルは A Genre-Based Legal Document Writing Support System Using OCHA and PAIL Approaches である。先行研究であるアメリカ合衆国憲法判例を例にして、「辞書」と「文書作成ツール」を装備したシステムとその応用方法を提示した。

（平成20(2008)年度）

平成20年度は、寺内は「条文」、「契約書」、「遺言書」、「特許申請書」といった憲法判例以外の「法律領域」の他の「ジャンル」を含んだ「法律英語オンライン辞書」作成のための下資料の整備に追われた。使用者を法律のプロフェッショナルとして、言語的、専門的側面双方から法律英語を駆使し、読むことはもちろん、実際にそうしたさまざまな法律文書を作成することを可能にさせる「法律文書作成ツール」を作成することを目標に、専門家の意見を聞きながら資料を整備し、システム構築の準備をした。

一方、野口は、このシステムの基本的な概念である「ジャンル」をいかにシステムに取り組んでいけるかを検証し、その成果をいくつかの学会で発表した。「法律以外」のプロ

フェッショナルの領域にも対応できる、すなわち、個別ユーザーが自分のデータを入れて学習できる学習支援システム構築のための予備実験である。寺内が作成した「遺言書用法律英語学習支援システム」と「契約書用法律英語学習支援システム」がどのように他の領域に応用できるかを試したのである。

両者の研究を統合して、最終年度の平成 21 年度にプロフェッショナル養成のためのジャンル別法律英語学習サポートシステムの構築を目指す基礎固めがほぼ終わったことになる。

(平成 21 (2009) 年度)

研究最終年度として、「法律英語オンライン学習システムの開発」を行った、その目的は「法律のプロフェッショナルが必要とする英語を、効率良く身につけるための学習システムを構築する」ことである。システムの特徴は 1) 重要な法律英単語の学習ができる、2) 学習の履歴が保存され、効率良く復習できる、3) 問題の関連キーワードにリンクを設定でき、類語辞書システムなどと連携可能な 3 点である。その「システムの機能」は認証(ユーザー認証を行う、問題実施(重要な法律英単語に関する 4 択問題が出題)、解説表示(問題実施後に問題の回答が表示される)、回答状況表示(正答率や不正解だった問題や単語が表示される)の 4 点である。

このシステム開発に要したのは以下のとおりである。開発実施スケジュール(カッコは期間中の可動時間)

2009/6/23, 7/24, 8/29 要件確認(計 6 時間)

2009/9/1-30 認証機能構築(計 15 時間)

2009/10/1-30 問題実施、回答表示(計 20 時間)

2009/11/1-30 回答状況表示(計 15 時間)

2010/12/1-10 動作確認テスト(計 7 時間)

今後、さらに開発すべきポイントは自分の

「回答履歴」だけでなく、他のユーザーの回答履歴を利用することや、法律英語に限らず、さまざまな分野に応用していくことが考えられる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 1 件)

(平成 21 (2009) 年度)

野口ジュディー, Reviewing science in an information-overloaded world. Hyland K. and Diani, G. (Eds.). *Academic Evaluation* (編集された学術書), pp. 34-39, 2009 年, 査読有.

[学会発表](計 1 件)

(平成 19 (2007) 年度)

Hajime Terauchi, Judy Noguchi, Gregory Poole, A Genre-Based Legal Document Writing Support System Using OCHA and PAIL Approaches, The 16th European Symposium on Language for Special Purposes, University of Hamburg (Germany), 2007 年 8 月.

野口ジュディー, 「ESP とは何か」第 2 回日本 ESP 協会プロフェッショナル養成コースジャンル分析実践セミナー, 2007 年 10 月, 桜美林大学.

寺内 一・田地野 彰, 「専門教育との連携を目指した大学英語教育—ESP の研究成果に基づいて」第 77 回京都大学高等教育研究開発推進センター, 京都大学, 2009 年 2 月.

(平成 20 (2008) 年度)

Thomas Robb, Toshiko Koyama, Judy Noguchi, Moving Learning Materials from Paper to Online and Beyond, LET(外国語メディア教育学会)World CALL (国際大会), 福岡国際会議場, 2008 年 8 月.

野口ジュディー・宮本正治・照井雅子・三崎敦子, 「翻訳プロセスへのコーパス分析とジ

ジャンル概念導入の有効性」言語処理学会第15回年次大会，鳥取大学，2009年3月。

(平成21(2009)年度)

野口ジュディー・他，「ESPアプローチとコーパスを利用したCALL教室での医学系大学院生を対象とした英語論文指導」第49回外国語メディア教育学会全国研究大会，流通科学大学，2009年8月。

野口ジュディー，ESP and Corpus Linguistics: What and Why and How，月例英語教育公開講座，立命館大学(衣笠キャンパス)，2009年10月。

野口ジュディー，OCHA and PAIL for Adaptable ESP: Raising Genre Awareness for Teaching of and Research on ESP Discourse (Keynote lecture)，2009 International Symposium on ESP in Taiwan，Fooyin University, Kaohsiung, Taiwan, 2009年11月。

野口ジュディー，Keys to Teaching English to Nurses (Conference workshop)，2009 International Symposium on ESP in Taiwan, Fooyin University, Kaohsiung, Taiwan, 2009年11月。

野口ジュディー，EAP for Nurses in Higher Education (Invited lecture)，Lecture sponsored by Taiwan Ministry of Education, Shu Zen College of Medicine & Management, Taiwan, 2009年11月。

寺内一，「21世紀のESP—新しいESP理論の構築と実践」大塚英語教育研究会2月例会，共立女子大学，2010年2月。

[図書] (計1件)

寺内一「21世紀のESP」森住衛・神保尚武・岡田伸夫・寺内一(編)『大学英語教育学』2010年、大修館書店。

[その他]

報告書

寺内一・野口ジュディー『プロフェッショナル養成のためのジャンル別法律学習システムの構築』，平成19年度～平成21年度科学研究費補助金(基盤研究(C))成果報告書，2010年3月。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

寺内一 (TERAUCHI HAJIME)

高千穂大学・商学部・教授

研究者番号：50307146

(2) 研究分担者

野口ジュディー (NOGUCHI JUDY)

武庫川女子大学・薬学部・教授

研究者番号：30351787

(3) 連携研究者

グレゴリー・プール (GREGORY POOLE)

筑波大学・人文社会科学部・教授

研究者番号：60307147